

昭和52年度 和歌山県文化奨励賞

しん や けん じ ろう
新 屋 兼次郎

住 所：和歌山県有田郡湯浅町

出 身 地：和歌山県

生 年：明治33年

◎業績及び経歴

独学で小学校教員検定試験に合格、大正12年小学校教員をふりだしに昭和41年3月和歌山県立耐久高等学校を退職するまで教職にあったが、その間浜口梧陵翁の影響もあり地震予知の研究を地道につづけた。

そして地震予知の観測データをもとにした論文を京大に提出したことにより京都大学理学部科学教育研究室卒業の資格を与えられた。

氏は、観測資料を調べるうちに湯浅一帯では一つの特色があることに気付き地震の伝わっていく速度の公式である大森公式は、湯浅地方には当てはまらないことをつきとめ新屋公式と名付け学界に発表、東京大学学界誌、地震研究所彙報を通じ、全世界に紹介し、その土地その土地での観測が大切であることをあらためて知らせた。

国鉄紀勢本線の有田川鉄橋の架設には気温のデータ、由良トンネル建設には岩石調査、由良造船所建設には潮位観測がそれぞれ役立った。

このような個人での観測は珍しく、同一人が同場所で長期に観測することは、地震学上重要であり氏の基礎データは日本の地震学上欠かせない資料となっている。